

核兵器廃絶への大きなチャンス

日本政府は唯一の被爆国としてのイニシアチブを

米ロ両国が「核兵器のない世界」をめざす

オバマ米大統領は4月5日、チェコのプラハで「アメリカは核兵器を使用した唯一の核保有国として行動する道義的責任がある。：アメリカは核兵器のない世界をめざす」と演説し、ロシアのメドベージェフ大統領も4月20日、アメリカとの間で核兵器削減の新たな交渉を始めることについて「その条約に関する仕事は：核兵器のない世界へと動くプロセスを促進しうるもの」と語っています。世界の95%の核兵器を保有する米ロ両国が「核兵器のない世界」の目標を共有し、そのために努力するならば核兵器問題は大きく前進します。いま、核兵器廃絶への絶好のチャンスが生まれています。この流れを促進するひとつの動きとして5月17日には、ノーベル平和賞を受賞した17人が、各国の政治指導者や市民に対し、核兵器廃絶に向けて行動するように訴える「ヒロシマ・ナガサキ宣言」を発表しました。宣言はオバマ氏の核兵器のない世界へのよびかけに賛同し、「全人類の利益のために、すべての国の指導者が固い決意をもってこの目標を追求する」ことを訴えています。

日本政府は「核の傘」から離脱し 核兵器廃絶の先頭に立つべき

一方、唯一の被爆国日本は、「北朝鮮の核開発問題が解決しないと核兵器廃絶もすすまない」などと核拡散問題を理由に積極的な役割を果たそうとしていません。しかし、北朝鮮にこれ以上の核開発をさせないためにも、国際社会が核兵器廃絶に緊急に取り組むことが大切です。日本政府はアメリカの「核の傘」に固執するのではなく、核兵器廃絶の国際交渉に向けたイニシアチブを発揮するべきです。

オバマ演説の背景には、被爆者とともに半世紀以上にわたって核兵器廃絶を世界に訴えてきた日本の運動があります。私たちは、2010年春の核不拡散条約（NPT）再検討会議にむけて、昨年のも水爆禁止世界大会がよびかけた「すみやかに核兵器禁止・廃絶条約の交渉を開始し、締結する」ことを求める「核兵器のない世界を」署名に1200万筆を目標にとりくんでいます。みなさんの「核兵器はいらない」の声を署名に託してください。

「ノーベル平和賞受賞者ヒロシマ・ナガサキ宣言」より

「世界はすでに核兵器がとてつもない規模の惨事を人類にもたらすことを知っています。無差別で、不道徳で、違法な兵器です。広島・長崎への原爆投下と、その後の長期的にわたる影響からも明白のように、核兵器は想像を絶する結果をもたらす軍事兵器です。

核兵器廃絶は可能です。いや、それ以上に、核兵器廃絶は、全人類にとってより安全な地球を築くために必要不可欠なものです」

原水爆禁止日本協議会

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4
TEL.03-5842-6031 FAX.03-5842-6033
<http://www.antiatom.org/>